◆（有）北村製茶（きたむらせいちゃ）のプロフィール

昭和２９年、父親の親二さんが現在地で入植、開墾、お茶の栽培を始め、昭和４５年から無農薬栽培茶の生産・製造販売を始め、昭和５０年、有機無農薬栽培に移行した。昭和５３年に長男の誠氏が、昭和５５年に次男の正紀氏が就農。平成３年に有限会社を設立。

平成７年日本農業パイオニア賞・農林水産大臣賞・全国開拓農業者連盟委員長賞、平成１０年環境保全型農業推進コンクール優秀賞などの受賞、佐々町における認定農業者第１号の認定、長崎県第１号の有機ＪＡＳ認定。

現在、有機ＪＡＳ認定ほ場で茶畑８００ａ（自作地５００ａ、借地３００ａ）を経営。

(有)北村製茶のPR看板と茶畑

◆有機農業を始めた動機

昭和４５年に地元生協から「茶畑の一部を完全無農薬栽培にしもらいたい。」との要望に対し、「どうせやるならと思い立ち、全部の畑で無農薬栽培を始めたが、病虫害の発生で収量が１／３に減少し、品質も悪くなってしまった。」とのこと。

昭和５０年から有機無農薬栽培に移行するまでの５年間は、害虫に強い茶園にするために土づくりに努めた結果、収量・品質が安定的になり、お客さんに喜ばれるお茶づくりが出来るようになったとのこと。

現在では、「長崎の北村もの」として、一目置かれるお茶となっている。

◆経営技術対策

経営を家族で分担し、責任を持って対応することとしている。

ほ場は、雑草刈や整枝による通気性の確保が大事である。また、食酢や木酢液の他、木炭を土壌改良に利用することで、土壌中の通気、保水性の向上、土壌菌の増加などの効果が高まっている。

価格設定については、年間を通じて一定額となるように設定し、他の農家のような２番茶以降でもあっても、きつい時期の収穫でもあり、成分的にもポリフェノール含有が高い時期ということから高めの設定としている。

記帳・記録によるデータ管理の励行が、取引先への信頼の確保につながっている。また、毎年実施される登録認定機関の登録更新の審査時に、農林水産消費安全技術センターの行う監査業務が毎年対象となっていることも、取引先の信用・保証を増す要因となっている。

◆消費との交流

（有）北村製茶には、年間、２０００人ぐらいが来園しており、茶摘みの時期には地元幼稚園や生協関係者の多くが体験している。

また、手作りの展望台を整備し、いろいろな消費者交流イベントを開いて、訪れてくる消費者に対し、思い出づくりと茶園のイメージアップを図っている。

北村　誠氏と自家製展望公園

◆これから有機農業をやりたい人へのアドバイス

無理をせずに、段階的に有機農業に取り組んでもらいたい。

記帳・記録を心がけることで、過去のデータ管理ができるようにする。

資料となる本を良く読んで、あり得ないことに挑戦する。

茶園の農作業と製茶工場

◆今後の抱負

お茶は、販売量の確保、これによる売り上げだけを目指さず、原料を生産する生産者、作ることを使命とする生産者を目指し、消費者に安心してもらえるお茶づくり、お客様に必要とされる生産者になることに心がけていきたい。

◆主な販売先

主に、生協・企業向けに出荷。一部を自宅（インターネット、電話・ファックス）で販売している。

お問い合わせ
電　話０９５６－６３－２７０７
ＦＡＸ０９５６－６２－３１２８